

第 1497 回例会報告

平成29年3月9日(木)晴れ

会長挨拶

会長 河西達雄

老いるということ

昨年偶然にも尾上正弘さん、大澤邦彦さん、御子柴文夫さんのお三方がサムエル・ウルマンによって書かれた「青春」のお話をされました。

名調子の詩の韻の良さもさることながら、そこに書かれている「年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる」の一節に、多くの方が感動を覚えるのではないのでしょうか。

しかし私の日々の過ごし方を考えると、理想を失うとかいう前に 1 日 1 日すごく長く感じるのに、一週間や 1 年はあつと言う間に過ぎていきます。立ちどまって落ち着こうにも、時計は進み、言いようのない焦りに捉われる時もたまにあり、無為に一日の積み重ねで、70歳になってしまいました。

ところが先日、曹洞宗のお経の中に「光陰は矢よりもすみやかかなり、身命は露よりももろし。」という言葉があるのを知りました。

光陰と言えば「光陰矢の如し」「少年老い易く学成り難し一寸の光陰軽んずべからず」とかを思い浮かべますが、説教じみた「少年老い易く学成り

難し一寸の光陰軽んずべからず」と「光陰は矢よりもすみやかかなり、身命は露よりももろし」はニュアンスがだいぶ違います。

月日というのは日々矢のごとく過ぎ去っていくのだ。そして、みんなが老いていく。今、目の前にいる大切な人は「いつかわからない、いつか」に別れを迎えるはかないものだという事のように。

「一寸の光陰軽んずべからず」はサムエル・ウルマンのように能動的であり「身命は露よりももろし」は、日本的な無常感にあふれていると思いました。

なにより、この言葉がお経の中にも書かれているということは、高名な和尚様でもおなじような気持ちで生きていたのか。そして人の命の儚さこそが本質なのかと考えさせられました。

もっとも「光陰は矢よりもすみやかかなり、身命は露よりももろし」の解説は、現在も未来も、ありふれた日常の「今ここ、この一瞬。」が二度とない時間で二度と戻れない場所でとてもありがたい縁なのだと言ひ、死はいつ来てもおかしくない存在なのです。それを私たちは「そうあつては嫌だ。」と言っているのです。本当は、毎朝、目を覚ませば、「今日もこうして目を覚ますことが出来た。」と感謝する気持ちがなければいけない存在なのです。時が経つことへの不安は、そう簡単には払しょく出

■出席報告

会員数	37名
出席対象	37名
出席者数	30名
出席率	83.3%
前回修正	86.1%

■ニコニコBOX

6名	6,000円
累計	396,300円
目標額	60万円
達成率	66.1%

■今週のこぼ

小泉さん、本日は大変お忙しい中ありがとうございますお話し楽しみにしています。

宮坂英貴

ようやく2015-2016年度の事業報告書が配布されました。やれやれです。

御子柴文夫

昨日無事第1回目の理事予定者による理事会が終了いたしました。皆さんハツラツとした笑顔で希望に燃えております。よろしくお願ひ申し上げます。

会長エレクト高山巖

青少年交換でフランスに留学した孫が大学に合格できました。

御子柴幸二



来ないかもしれませんが、でも、“生かされてる”ことへの感謝の気持ちを持って、毎日を生きてきたものだ。私たちは「“生きている”私」というよりも、「“生かされてる”私」という解説につながります。

この部分は、原稿を読まなければ理解できないほど身に入りません。特に「“生かされてる”私」というのが、言葉で解っていても、どうにも身になりません。むしろ、なるようにしかならないから勝手に生きている私とってしまうのです。

こうして老いていくのかと思うと、結構暗くなりますが、またそのことも忘れて日々平穩に明るく年をとっていきます。

今月の結婚祝



今月の結婚祝いは渡邊会員、萩田会員、北原会委員でした。



第 1497 回例会

子供たちとコンビニエンスストア

小泉知恵子さん

担当 青少年奉仕委員会

本日は、セブンイレブン湖岸通り店のオーナー店長である小泉知恵子さんをお招きし、コンビニエンスストアが私たちに利便性を提供しているほかに、地域に安全を届けるように努力しているお話をお聞きしました。

後半の質疑応答では、多くの質問が出て大いに盛り上がりました。

なお小泉さんは、諏訪湖ロータリークラブへの

加入をご検討いただいているとのこと、大変うれしい限りです。



セブンイレブン下諏訪湖岸通り店の小泉知恵子と申します。

今回はコンビニエンスストア13社でおこなっている「セーフティステーション(SS)活動」についてお話しさせていただきました

みなさん次回コンビニに立ち寄られたときは、入り口にあるぞうのポスターに目を向けてみてください。それが「セーフティステーション(SS)活動」のマークです。

コンビニエンスストアは、地域のみなさんに便利さだけでなく安全安心なまちづくりを目指しています。

セーフティステーション(SS)活動とは

2000年警察庁から、「まちの安全・安心の拠点」としての活動要請を受け、当協会に加盟するCVS13社でスタートしたセーフティステーション(SS)活動は、約4年にわたる試験的実施を経て、2005年6月から順次全国各地での本格始動をしてきました。そして、10月1日から全国約4万2千店のコンビニエンスストアで足並みをそろえ本格的に行われています。



詳しくご覧になりたい方は「SS広場」で検索してみてください